

土浦・つくば支社 ☎029(822)4567 ファクス(823)6488
 取手・龍ヶ崎支局 ☎0297(72)1139 ファクス(74)2700
 石岡支局 ☎0299(26)6100 ファクス(26)6405

西 南 南 東 県

「受け皿に」施設開所

高次脳機能障害の子を持つ山崎明美さん(57)が1日、指定障害福祉サービス事業所「サポートステーションオリオン」を市内に開所させた。交通事故で脳を損傷した三男(23)は何れも通所先とトラブルを起こし退所を余儀なくされた。支援現場での受け入れ口がないと痛感し、「爪はじきされている人の受け皿になりたい」と自ら立ち上がった。

高次脳機能障害 かすみがうら

2010年1月の早のようになった。昼あ朝。「息子さんが事故」と言われた性格に遭った。警察署からは様変わりし、気に入らぬ連絡だった。三男は爆発する。感情を宅堀などに衝突した。つかさどる部分を痛間、意識不明の状態が1ヵ月続いた。

目立った外傷はないが、脳に深い傷を負った。右半身にやまひが残るが、見た目は健康者と変わらない。しかし、事故後は別人



職員と仕事の打ち合わせをする山崎明美さん(左)と三男のかすみ(右)がうら市伏

現状痛感、母親が決意

切れない」と断られた。「預ける側からすれば施設の職員はプロ。どんな障害も対処して、くれると思っていた」。期待に添える場所はなく、現在通う所は6カ所目になる。今年2月、自宅で夫婦でたんとした時だった。「こんなに首になるなら、自分でつくるしかないじゃん」。山崎さんがほろっと福らした。福祉とは縁遠い素人だが、自身を「一度口にしたら実行する」と称する。4月から開所に向けて本格的に動き始めた。つてを頼りに施設長たちと会っては訓練方法を学んだ。障害者を雇用する企業も紹介してもらい、声を聞いた。5月に一般社団法人「銀河」をつくり、代表理事となった。利用者が集まるかどうか不安はあるが「できるだけ多くの方を社会に出したい」という。オリオンには三男も通わせる。

施設から携帯電話に連絡があると「ドキキ」と緊張が走る。「施設に預けた時間だけは、安心するようにしたい」。家族へのサポートも忘れない。

(斎藤明成)